

「エース」としての自覚

私の大学生活の始まりはコロナ禍であったため、入学前に思い描いていたものとはかけ離れていて、何度も大学を辞めて働こうと考えました。しかし、首藤先生の授業は楽しかったので、3年生から始まるゼミにかけることにしました。「ゼミが楽しくなければ大学を辞める」そんな覚悟を持ってゼミ見学に行き、そこで私は、「エース」と名乗る先輩に出会いました。「エース」が何なのかわからないまま、「俺が次世代のエースになる。」そう宣言をして私のゼミ生活が始まりました。

何をするのが「エース」なのかわからなかった私はとにかく盛り上げようと考え、とりあえずいきなり同期全員の飲み会を開催すると同時に、「ゼミの行われる水曜日はバイトを入れるのを極力控えよう！」と、音頭をとりました。それが功を奏したのかわかりませんが、凄まじいスピードでゼミ生同士が仲良くなっていきました。最初は、私が楽しめる場所を作りたいと思い、飲み会や集まる機会を提供していましたが、みんなが仲良く楽しんでいる姿を見て、少しは「エース」としてゼミに貢献できたのかなと思えるようになった気がします。

そこから意識が少しずつ変わり始め、みんなが楽しむためにはどうすべきか考えるようになりました。例えば、飲み会では1人1人の特性や仲間同士の関係性を考慮してあらかじめ席を決め、どのような配置にすれば全員で盛り上がるかを考えました。成功するときもあれば、失敗するときもありましたが、このような経験から周りを見る力が養われたと感じています。これは、間違いなく「エース」になると宣言したからだと思います。以前の私は、すべて自分本位で物事を考えていましたが、「エース」としてみんなを引っ張るという意識が私自身を大きく成長させてくれたのだと確信している今日この頃です。

ただ、私が引っ張ると意気込んでも付いてくる人がいなければ何も始まりません。こんな私に付いてきてくれた仲間には感謝しかありません。ありがとう。そして、「エース」という存在でいてくれた先輩にも感謝しています。あなたがいてくれたから「エース」に憧れをもち、成長することができました。ありがとうございます。そして今ではこんな私に影響を受け、次世代の「エース」が生まれようとしています。先輩から受け継いだ「エース」を後輩に引き継ぐことができていると同時にとても嬉しく思います。

世界中どこのゼミを探しても「エース」という役職があるのは首藤ゼミだけだと思います。首藤ゼミには「エース」が必要です。今後も「エース」が脈々と受け継がれていくことを期待しています。私は、首藤ゼミで「エース」になれたこと誇りに思っています。卒業しても「エース」の自覚を忘れずに、圧倒的な結果を出し続けていくことをここで宣言します。

ノンストップ・グローリー！！

2025年3月15日

首藤ゼミ二代目エース

権名 葵海